

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和4年 6月 24日

静岡県知事

川勝 平太 殿

提出者

住 所 静岡県菊川市嶺田5100

氏 名 安藤ハザマ興業株式会社 菊川工場

執行役員工場長 武田 和彦

電話番号 0537-73-0090

産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	安藤ハザマ興業株式会社 菊川工場
事業場の所在地	静岡県菊川市嶺田5100
計画期間	令和4年4月1日から令和5年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	大分類：E製造業 中分類：21窯業・土石製品製造業 小分類：212セメント・同製品製造業
② 事業の規模	前年度の製品出荷額額616.4百万円
③ 従業員数	12名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり



（日本産業規格 A列4番）

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙2のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・混合廃棄物コンテナの常設台数を増やし、ダンボール・木くずを分別した。 ・コンクリートくずについては極力再生砕石利用がされるよう排出した。(1,023.55tのうち966.55t 約94%)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 今後も上記内容を継続実施していく。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 混合廃棄物契約のコンテナを複数台設置(紙、木くず、その他)の最低限の分別を実施した。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記を継続すると共に、廃プラスチック類の分別に取り組む。

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 自ら利用は行っていない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後も自ら利用を行う計画はない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組) 自社で中間処理は行っていない。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) 今後も自社で中間処理を行う計画はない。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
①現状	【前年度（令和 3年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t
	(これまでに実施した取組) 自社で埋立処分又は海洋投入処分は行っていない。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t
	(今後実施する予定の取組) 今後も自社で埋立処分又は海洋投入処分を行う計画はない。	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	(これまでに実施した取組) 総排出量の多いコンクリートくずの排出にあたっては、優良認定取得有無でなく、確実に再生砕石使用ができる業者を選定した。	

(第5面)

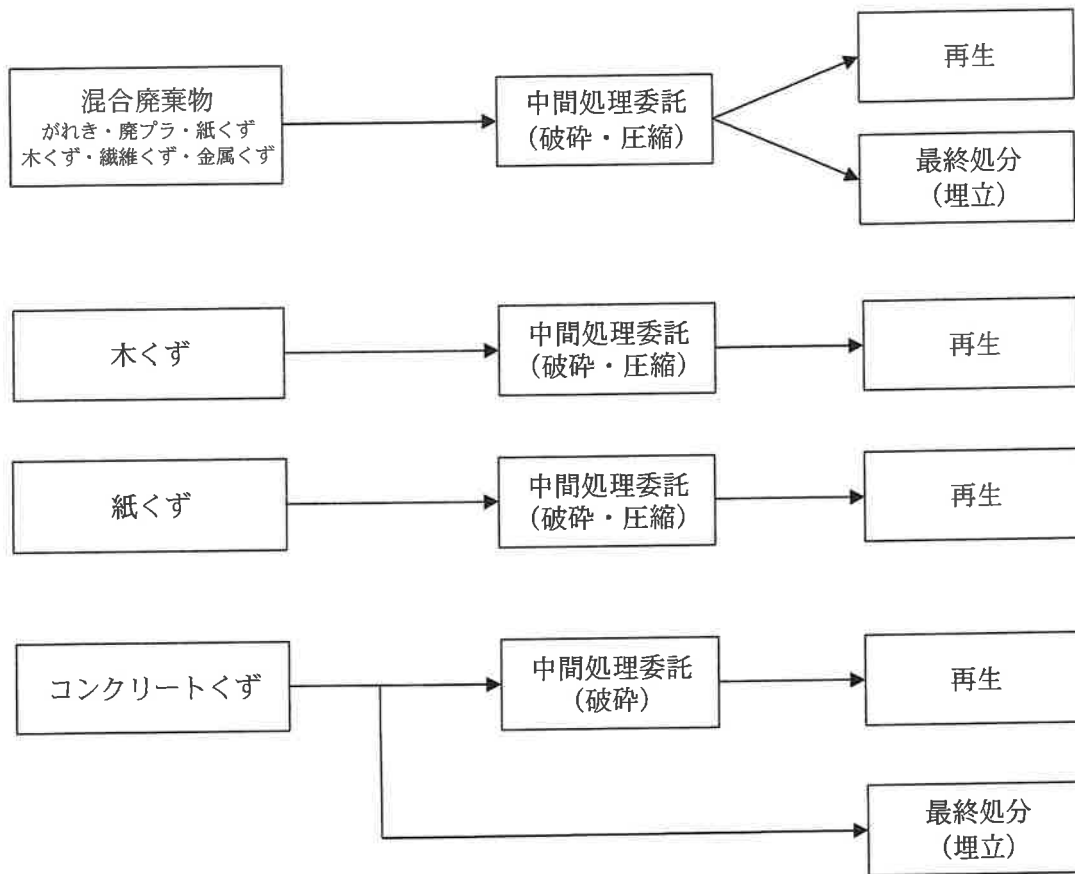
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	(今後実施する予定の取組) コンクリートくずの再生砕石利用に加え、廃プラスチック類の再資源化分別に取り組む。	
※事務処理欄		

(第6面)

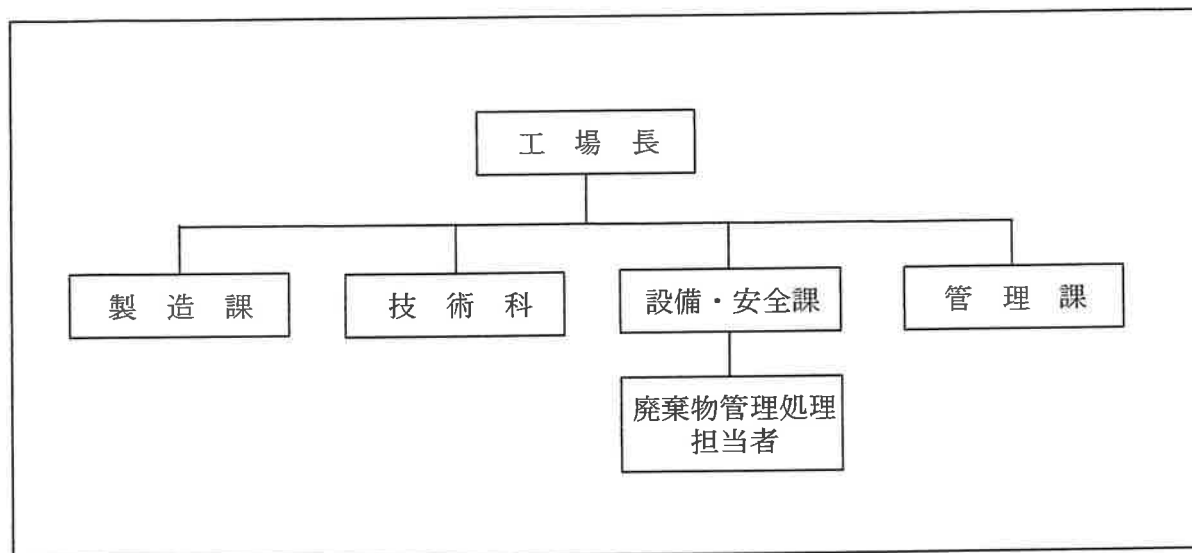
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の一連の処理の工程



(管理体制図)





産業廃棄物の排出の抑制に関する事項						
①現状	【前年度（令和3年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	管理型混合廃棄物	木くず	紙くず	コンクリートくず	計
	排出量	16.380t	2.750t	5.250t	1,023.550t	1,047.930t
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	管理型混合廃棄物	木くず	紙くず	コンクリートくず	計
	排出量	20.000t	3.300t	6.300t	1,230.000t	1,259.600t
産業廃棄物の処理の委託に関する事項						
①現状	【前年度（令和3年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	管理型混合廃棄物	木くず	紙くず	コンクリートくず	計
	全処理委託量	16.380t	2.750t	5.250t	1,023.550t	1,047.930t
	優良認定処理業者への処理委託量	16.380t	2.750t	5.250t	—	24.380t
	再生利用業者への処理委託量	—	2.750t	5.250t	966.500t	974.500t
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	—	—	—
②計画	【前年度（令和3年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	管理型混合廃棄物	木くず	紙くず	コンクリートくず	計
	全処理委託量	20.000t	3.300t	6.300t	1,230.000t	1,259.600t
	優良認定処理業者への処理委託量	20.000t	3.300t	6.300t	—	29.600t
	再生利用業者への処理委託量	—	3.300t	6.300t	1,150.000t	1,159.600t
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	—	—	—